



きよみずでら さくら
清水寺の桜の後継樹が里帰り

ー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー

ポイント

- ・京都府京都市の清水寺の桜の後継樹の苗木が、国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター関西育種場から里帰りします。

概要

岡山県勝田郡勝央町にある国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター関西育種場では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保全を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖するサービス「林木遺伝子銀行110番」を行っています。清水寺からこのサービスを利用した増殖の要請があり、接ぎ木により増殖し育てた清水寺の桜の後継樹の苗木が里帰りします。

- 里帰り場所及び日時 日 時：平成29年3月30日（木曜日） 午前11時（雨天決行）
場 所：京都市東山区清水1-294 清水寺仁王門前
- 里帰りする苗木本数 7本

お問い合わせ先

- 国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター関西育種場
事業責任者：遺伝資源管理課 課 長 竹原正人（たけはらまさと）
担当者： 収集管理係長 河合貴之（かわいたかゆき）
普及調整専門職 笹島芳信（ささじまよしのぶ）
広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 林 勝洋（はやしかつひろ）
Tel：0868-38-5138 Fax：0868-38-5139
- 清水寺
担 当 者：清水寺 執事補 大西皓久（おおにしこうきゅう）
Tel：075-551-1234

本資料は、京都府政記者クラブに配付しています。

背景

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。このため、国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター関西育種場では、天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、樹木が衰弱している等で所有者等からの要請により後継樹の苗木を増殖するサービス「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。関西育種場ではこれまでに 70 本以上の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました。後継樹の苗木は、さし木や接ぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていますので、二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りする後継樹の親木は、京都府京都市の清水寺の桜で、樹高約 15m、胸高直径約 60 cm、推定樹齢は 100～150 年の桜です。清水寺の境内には多数の品種の桜が植栽されており、春にはその華やかさでご参拝の方々を楽しませています。その中で、この桜は境内北側にあるため、多くの人々の目に触れることはありませんが、静かにそして凛と、その花を咲かせています。その咲き姿は独特であり、淡い色合いと長い開花期がその特徴です。平安時代後期には歌に音羽（おとわ）の桜と詠まれており、その時代から桜の名所として多くの人々を引き付けていたことが推察されます。今回里帰りする桜については、同じような花の特徴を持つ桜は境内には他になく、境内に植栽された多数の品種の桜とはその特徴が異なるため、音羽（おとわ）の桜の系統をひく可能性もあるのではと考えられています。その古の景色を復活させるべく、後継樹育成の依頼がありました。

平成 28 年 2 月 4 日に親木から枝（穂木）を採取し、平成 28 年 3 月 31 日に当育種場で接ぎ木増殖を試みてきました。このほど、増殖に成功し野外に植栽しても生育できる見込みがついたことから、7 本を平成 29 年 3 月 30 日に里帰りさせることとなりました。

図、表、写真等



清水寺の桜



清水寺の桜の後継樹